

嗚呼、インドネシア Ah, INDONESIA

第 31 話 トラウス大仏

2007 年 1 月 31 日に東ジャワ州マラン市から中部ジャワ州スラカルタに仕事場が移動したので、その引越しついでに経路途中にある遺跡を訪ねてみた。

トラウス大仏 (Reco Lanang = Buddah Ashobhaya)



Reco Lanang-1



Reco Lanang-2



Reco Lanang-3



Reco Lanang-4

高さ 5.4m、幅 30m、奥行 2.58m であり、大仏の位置は南緯 7 度 40 分 21 秒、東経 112 度 34 分 59 秒。台座の標高は 916m である。

現在の像は西から南に 23 度の方向に向かって鎮座している。

この石造大仏は 1854 年に発見された。発見されたときには南を頭に仰向けであったとのガイドの説明があった。

宗教を問わず参詣者が多いとのこと。お線香たてにも新しい燃えカスがあった。

たしかにこの地点は地縛霊などの影響がなくすがすがしいので、瞑想するにはうってつけの場所である。

2007 年 5 月 17 日に Trowulan 博物館館長のアリス氏に尋ねたところ、この大仏は未完成のタイプであるとのことであった。

2007 年 10 月 03 日に訪れた青森県下北半島の恐山でよく似た仏像に出会った。この仏像は約 50cm の高さであり、この大仏とは比較にならない大きさだが、一目見たときにこの Reco Lanag を思い出したほど似てた。Reco Lanang は製作途中で政変などがあり製作中止になったものと思われるが、最終的な形は下の写真のようになる予定であったと思われる。



ちなみに「恐山」という山はなく、宇曽利(うそり)、アイヌ語でくぼ地という意味だそうである。ここはカルデラ湖である宇曽利湖(標高約 250m)であり、天然林に囲まれている人口が希薄な地域である。冬季は訪れる人もないためお寺もしまってしまう。

2014-10-24 の追加

仏陀の段階に至るにはまだ未完成という意味を込めて仏像の彫刻を途中でやめたのだそうだ。



参道入り口の写真、同行の Sarwanto さん。彼は別に驚いているわけではない。

どこか日本の霊場の参道を思い出してしまうような風景であった。

ここに行くには、Trawas の町を目指して進み、この町に入ったら Arca Cottage の看板を辿ってゆく。数キロでコテージに着くから、そこからさらに約 100m 自動車道路を登ると上の写真の大仏の参道下まで行くことができる。

この坂が急なのと参道の階段が石貼りなのでハイヒールは避けるのがのぞましい。

大仏の近くに食堂や店舗はない。Arca Cottage が平日でも営業しているかどうか、食事が取れるかどうかは調べていないので、訪問される方は水と食料を準備していった方がよい。

上記の記事とはまったく関係ないのだが、ジョグジャカルタ パラントウリティスの入場券と、世界でも珍しい「トイレチケット」をゲットしたのでここに掲載しておく。



Mail to: omdoyok@infoseek.jp

2007-02-01 作成
2007-02-17 追加
2007-03-04 追加訂正
2007-05-19 Trowulan の部分を移動
2007-10-10 恐山の仏像を追加
2014-10-24 PDF 化